

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 26 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	井上 明日香	会員番号	0030262
申請者の所属・職名	筑波大学医学医療系内科（膠原病・リウマチ・アレルギー）・助教		
出席会議名	2014 Annual European Congress of Rheumatology		
発表論文タイトル	TIARP suppresses migration of neutrophils into joints via down-regulation of CXCL2 / CXCR2 pathway in autoimmune arthritis		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Awardを賜り、誠にありがとうございました。私は2014年6月11日から14日にかけてフランス・パリで開催された2014 Annual European Congress of Rheumatology (ヨーロッパリウマチ学会)に参加しました。ヨーロッパリウマチ学会は、リウマチ学分野では最大規模の学術集会であり、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群をはじめとする自己免疫疾患に関連した基礎・臨床研究に関する最新の情報を得ることができました。

私は本学会にて"TIARP suppresses migration of neutrophils into joints via down-regulation of CXCL2/CXCR2 pathway in autoimmune arthritis"という演題にてポスター発表をして参りました。有難いことにポスターツアーの演題に採択され、多くの方々に私のポスターに興味を持っていただき、質問やコメントを頂きました。これまで気づかなかったことや違った観点からの意見を頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。

本学会を通して驚いたことは、世界におけるコホート研究の規模の大きさと研究展開の速さです。さらに、多くの研究室では、次世代シーケンサーによる解析、microRNAに着目したヒト検体での大規模コホートなど、日本ではまだまだ浸透していない最先端の研究技術が当たり前のように用いられていました。またマウスの基礎研究からtranslational researchに向けた展開の必要性も強く感じました。このように研究が日々目覚ましく急速に展開されているなか、自身の研究の世界的位置づけ、意義を改めて理解するとともに、自分の研究を新たに展開できる道が見えてきたことと自分の足りない部分を再確認できたことは、とても貴重な経験になりました。

最後に、このような機会を与えて頂きました岸本忠三先生および選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。また研究のご指導を頂いた住田孝之教授、松本功准教授、ならびに研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、本学会中に得られた知見を活かし、今後の更なる研究に精進していきたいと思っております。